No.4
2013
10月

組人

KUMIBITO

ひとつに
ひとすじ
ひと物語

今月の組人 山岳写真家

白山は、私の生きた証
だから、生涯をかけてこの山を撮り続ける。

撮影:吉澤康暢

撮影:吉澤康暢

ここに1枚の写真がある。「シノゴ」(4×5in判)と呼ばれる大判カメラにより撮影された白山は、その自然の雄大さを克明に写し出している。数十センチ先の植物の筋模様から数キロm先の山のてっぺんの岩肌まできっちり焦点が合っている。 今回はこんな圧倒的な解像感をもつ作品を撮影する、ある人物を紹介したい。

「鉱物でも、カメラの機材でも、人でも、質の高い本物に出会うことが大事」そう言い放つ“とびきり上等な本物”に対峙してわたしは思わず息をのんだ。

吉澤康暢、現在68歳。地質学を専門とし、「自分の足で歩いて、自分の目で見る」フィールドワークを用い、様々な自然の研究・指導に力を注いでいる。

坂井市春江町で生まれ育った康暢少年は、当時父が所有していた教材用の水晶のとりこになった。学校の図書館では鉱物の本を読みあさり、大野の中竜鉱山、勝山の坂東島鉱山へ鉱物をもらいに何度も自転車で駆けていったのだという。

そんな鉱物少年の興味は尽きることなく大学進学を迎える。「田舎の長男坊に選択の余地はなかったですよ。教師は安定した職業ですし」

跡継ぎを約束させられた彼は親の期待を背負って福井大学教育学部に進学。そこで恩師である三浦静氏(福井大学名誉教授)の研究室を訪ね、地質調査に没頭していくことになる。

「このままいっても教員のまま、定年がくれば退職…もう定年後の自分が見えていましたから。でもそんな風に終わりたくない!」

子どもの頃の“夢”の3番目か4番目だったという理科教師になり、30歳を迎えた吉澤は自分のライフワークを探し求めていた。

そんな折、一つの作品に出会う。白山単独越冬に挑んだカメラマン、故伊藤仁夫氏の遺作写真集「白山の四季」である。

「ひらいた瞬間これだ!と思いましたね。気付いた時にはカメラ機材を買い込んで、山に向かっていましたよ」 伊藤氏の写真に感銘を受けた吉澤は教員を続けながらその後10年間、ほぼ毎週末白山に通いつめて、写真を撮り続けた。登山・アウトドア関連の出版社である「山と渓谷社」からも多くの誘いを受け、「アルペンカレンダー」や「日本の名峰24(1986)」など数々の出版物の写真を手掛けるようになる。その腕前は“白山に吉澤あり”とまで言わしめるまでになった。

撮影:吉澤康暢

撮影:吉澤康暢

そんな吉澤の写真に魅せられ、彼の後を追う写真家たちも数多い。「少しは彼らに影響を与えられたのかな…」謙遜しながら吉澤は笑う。しかし、かつての彼がそうだったように、弟子たちにとっては素晴らしい、本物の出会いだったに違いない。

「白山の大自然の美を自分の感性で切り取る」

吉澤の今の“夢”のひとつだ。だからまだまだ撮らなければいけない写真があるという。

「結局のところ、白山の何が良いのかというと、それは写真の魅力もあるし、山道の石ころひとつから白山火山の溶岩、そして高山植物があって、夜になれば天の川が見える…、もう他に何もいらないですよ。白山そのものがぼくの世界ですから。親子で今年も富士山、立山など色んな山に登りましたが、それでもやっぱり白山がいいなぁって」

そして今日も、少年の頃に夢見たものがすべて集まるこの山で写真を撮り続けている。

山岳写真家
吉澤康暢
(68歳)
信条としている言葉
継続は力なり

取材:宮本隆行
撮影:高橋正勝

子どもと見たコト 行ったトコ

大一印刷株式会社 専務取締役
髙橋正勝

男子が大好きな『印刷物』

小学生に大人気のトレーディングカード(トレカ)をご存じですか。数百種類のキャラクターカードの中から、数枚を選んで組み合わせた束(デッキ)を持ち寄り、2人以上で対戦できるカードです。休日は小5の息子が友だちとカードを広げて遊び、某古本チェーンにはトレカ目当ての男子が大勢集まり、大人子ども関係無く対戦しています。

このトレカ、私が思う『男子がハマる要素＝①キャラクター ②スペックやうんちく ③コレクション ④育成 ⑤闘い』を全て備えています。特に「闘い」というゲーム性は私の子どもの頃には無かった要素で、デッキの構成で大人がハマるくらい奥の深い遊び方が出来るようです。

ちなみに私が子どもの頃欲しかった『印刷物』と言えば、「メンコ」「ビックリマンシール」「プロ野球スナックのカード」など。少し前は森永ハイソフトの「鉄旅カード」にはまりました。

「1枚○円○○銭」今時こんな細かい数字で商売している印刷業。「大人買い」する(元)少年や、少ないお小遣いでカードにするかアイスにするか真剣に迷う息子をみて、「同じ印刷物だけどすごい」と思ってしまいます。ご注文いただいた印刷物も、トレカのように読みたくなる、手に取りたくなるような制作を心がけて行きたいと思います。

印刷にまつわるエトセトラ

オリジナルかるたを作りませんか!

テレビゲームやインターネットの普及により、昔からお正月の娯楽の一つとして家族や親戚の集まりで楽しまれていた「かるた」を最近あまり見かけなくなりました。

しかし近年「かるた」は脳の活性化や高齢者のリハビリ、そして家族のコミュニケーションツールの一つとしても見直されています。

一度オリジナルかるたを作ってみませんか! 弊社ではオリジナルかるたを1セットからでも制作いたします。原稿やデザイン選びなど少々時間もかかると思いますが、世界で一つだけの「かるた」を制作することも想い出作りの一つです。

「かるた」はデザインを変えることで学校や公民館の記念誌の代用として使うことも出来ますし、観光案内用に「故郷かるた」としてもご利用頂けますので、まずは何なりとお問い合わせ下さい。

編集後記

とある打合せ日、「ちょうど雄島の空撮を終えてきたばかりなんですよ」と今回の組人、吉澤さん。お昼休みにセスナで撮影をさらっとこなす、かっこよすぎます。そんな吉澤さんの作品を本文中に掲載させていただきました。数ある作品の中のほんの一部ですが、写真家の思いと共に切り取られた、デジタル編集のない白山の大自然をご覧ください。

著書:日本の名峰24 白山・奥美濃・伊吹(山と渓谷社)

わたしも白山には何度か登りましたが、どうも"登る"事を重視してしまいます。今度は少しゆっくり、自然を楽しみながら登ろう、そう思いました。

宮本

大一印刷株式会社 〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1 TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442